

主 題：教会のあるべき姿 = 成長⑥

聖書箇所：エペソ人への手紙 4章12節

テーマ：聖書の教える教会のあるべき姿とは？

今朝、皆さんと続けて見ていきたいみことばは、エペソ人への手紙4章12節です。私たちは今、エペソ人への手紙4章、特に1—16節を通して、「聖書が教える教会のあるべき姿とは一体何か？」について考えています。今日も続けて、主に喜ばれる教会として私たちが成長して行くために必要なみことばの教えを学んでいきましょう。

先週、学んだ内容を少し思い返してみてください。私たちは、「わたしは…わたしの教会を建てます。」(マタイ16:18)と約束された主が、どのような計画に沿って御自分の教会を建て上げていくのか、その設計図についてより深く考え始めました。何度も繰り返して言っていることですが、教会というのは、各々が思い描く教会の姿に基づいて好き勝手に建て上げてよいものではありません。主に召された私たちが一致を保って歩んでいくためには、教会の建設者であるキリストの設計図に従うことが何よりも大切になるのです。そして、その設計図としてパウロが挙げていたものは、「教会に賜物として霊的リーダーを与える」ということでした。主はご自身の教会が成長していくために、特に四つのグループからなる霊的リーダーと呼ばれる者たちをお与えになったのです。

最初に教会に与えられたのは、「使徒」でした。彼らは特別な力を受けてキリストから遣わされ、神から直接受けた啓示をことばや文字をもって人々に伝えるという役割を担っていました。彼らは色々な場所に出て行ってみことばを語り、また手紙や書物にそれらを記すことによって、絶え間なく神様のことばを宣べ伝えていたのです。こうして彼らは、今私たちのこの手元にある新約聖書を書き残し、教会の土台となる部分を築きました。

また、使徒に続いて教会に与えられていたものが、「預言者」たちでした。彼らも神様から受けた啓示を、特に地域教会において伝え、人々の信仰の成長に役立つ働きをしていました。こうして預言者は使徒たちとともに働いて教会の土台を据えたのです。

ですから、こうして考えてみると、今教会が存在しているのも、私たちがみことばから神様の真理を知ることができるのも、主がまず、このような賜物を持った人物たちを教会に与え、基礎となる部分を据えてくださったからだとのことです。私たちは今、使徒と預言者たちが築いたこの土台の上に立っています。彼らの働きは、教会が誕生した最初の段階において、教会の成長になくしてはならないものでした。

しかし、前回も見たように、私たちにとって十分な聖書が完成した今は、与えられた役割を終えた彼らはもういなくなってしまうのです。でも、これでキリストの計画が終わったわけではありませんでした。主は教会がますます成長していくために、彼らに変わって、今度は伝道者や牧師また教師と呼ばれるリーダーたちを教会に与えられました。

「伝道者」とは、まだ主を知らない人々のところに出て行って福音を宣べ伝え、救われた後もそれから離れていかないようにと繰り返し福音を教え続ける者たちでした。教会の成長には「良い知らせ」を語り続ける伝道者たちの働きが必要不可欠なのです。

また この伝道者に加えて、教会には主から託された羊を監督し、みことばを教えることによって彼らを守り導いていく「牧師・長老」と呼ばれる複数のリーダーたちも与えられていました。先週も言いましたけれども、教会というのは、ひとりのリーダーだけが働いたり、この人物によってすべてのことが決められていくわけではありません。教会は聖書が教えている資格を満たした、霊的に成熟した複数のリーダーたちによって養われ、導かれていくのです。

皆さん、前回、教会には複数のリーダーが与えられていて、ひとりのリーダーの働きによって建てられていくものではないと聞いて、良かったと思いませんでしたか？なぜなら、霊的リーダーも完璧な存在ではありません。また以前にも見たように、救われたすべての人は賜物を持っていますが、すべての賜物を持っている人はいなかったですよ？ 教会のリーダーも例外ではありません。どんなリーダーにも欠

けているところがありますが、霊的に成熟したリーダーが複数集まれば、足りない部分をほかのリーダーたちで補い合うことができるのです。そして、そのような複数の教会のリーダーたちが一つとなって、羊が抱えている様々な問題の必要を満たしていこうとするのです。だからこそ、教会の中でだれかひとりのリーダーだけが力を持つということは、群れの成長にとっては危険なことだ、ということです。私たちは複数の長老たちが構成する長老会のリーダーシップに従いながら、ともにみことばを学んで成長を目指していくのです。

こうしてみことばを見れば、主はまず基盤を築くために使徒と預言者を与え、続けて伝道者や牧師また教師をお与えになりました。特に、教会を監督し、牧する責任を持つ長老と呼ばれるリーダーたちを用いて、みことばを忠実に教えることにより、教会がますます成長していくようにと主は計画されていたのです。これが教会の成長に対して主が持つておられる設計図でした。主はこのようにすばらしい計画を教会のために持つておられたのです。

ここまで聞いてきて、この主の設計図を見てきて、霊的リーダーが教会に与えられたのは分かったけれど、私たちの普段の歩みにはどんな関係があるのだろうか？霊的リーダーは私たちの成長にどんな具体的な影響を与えてくれるのだろうか？と考えた方がおられるかもしれません。それなら、すばらしい知らせがあります。感謝なことに主は11節で話を終えていません。「霊的リーダーを教会に与えた」と話した主のご計画には続きがありました。主は霊的リーダーを教会に与えて、「あとは自分たちが考えて、好き勝手に教会を建て上げていきなさい。」とは言われなかったのです。彼らを教会の成長のために与えたのには、大きな目的がありました。

先週、最後に少しだけその目的について触れましたが、覚えていますか？キリストが霊的リーダーを与えられたのは、人々を整えて教会を建て上げていくためなのだと言いました。今日はそのことが記されている12節にのみ絞って、どうして主が教会に賜物として霊的リーダーお与えになったのか、その目的を今一度考えてみましょう。

少なくとも12節を見れば、私たちはパウロが記した三つの目的を見ることができます。キリストが教会に賜物を与えた三つの目的です。この目的を考えれば考えるほど、あることが鮮明に浮かび上がってきます。それは、私たちひとりひとりが今、教会に置かれているのには大きな目的があるのだということです。私たちはただなんとなく救われて、ただなんとなく神の家族に入れられて生きているわけではありません。私たちはそれぞれ、教会を建て上げる主のご計画において、ある大切な役割を担っているのです。では、その役割とは一体何でしょう？主はどんな目的で霊的リーダーを教会に与え、彼らは私たちの歩みにおいてどのような影響を与えるのでしょうか？そのことを12節からともに考えていきたいと思えます。文脈を覚えるためにも11—13節のところをお読みします。

エペソ4：11—13

「：11 こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。：12 それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、：13 ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。」

○キリストが教会に賜物を与えた目的について

1. 聖徒たちを整えるため 12 a 節

キリストが教会に賜物として霊的リーダーを与えた目的の一つ目は、「聖徒たちを整える」ためでした。12節の初めにこう書いていました。「それは、聖徒たちを整えて…」と。霊的リーダーが教会に与えられた目的は、救われた者たちが整えられた者となっていくことでした。キリストは私たちが整えられた者になることを何よりも望んでおられるのです。では、そもそもこの「整え」られるとは一体どういうことなのでしょう？何を主は望んでおられるのでしょうか？

ここで「整えて」と訳されていることばは、もともと「何かを準備する」とか「何かをふさわしい状態、正しい位置に戻す」といった意味を持っています。こういった意味から、「正しい位置から外れてしまっている骨を元の位置に戻す」という意味で用いられていたり、「壊れたり破れてしまった網を修繕する」という意味で用いられたりします。皆さん、初めてイエス様がヤコブとヨハネに出会った時、彼らは舟の中で何をしていたか覚えていますか？彼らは舟の中で網を直していました。その時の様子が、マタイ4：

21に記されています。「そこからなお行かれると、イエスは、別のふたりの兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、父ゼベダイといっしょに舟の中で網を繕っているのをご覧になり、ふたりをお呼びになった。」ここに記されている「網を繕っている」というのが、パウロが用いていた「整えて」と同じことばになるのです。当たり前のことですけれども、もし網が破れたまま漁に出れば、漁なんてできないですよ。どれだけ魚の大群を目撃したとしても、それを捕まえるための網がなければ意味がないのです。だからこそ、漁師は漁をする前に、準備として、破れてしまった網を使うことができるようにと直すのです。

教会に与えられた霊的リーダーの働きもこれと同じだということです。主に召された私たちにはそれぞれ賜物が与えられていて、主から託された働きがあります。でも、私たちはそれを自分勝手な方法で行うのでも、自分の能力に頼って行うのでもありません。私たちはみことばが教えているとおりに主に従って、主のために仕えていくのです。

皆さんも経験があると思いますが、働きをしようとしても、私たちはまだまだ知らないことがあります。みことばを知らなかったり、知恵が無かったり…私たちのうちには足りないところがあるのです。だからこそ、働きをしていくためにはその前に、まず準備される必要があります。私たちは働きを行うのにふさわしい者として整えられていく必要があるのです。キリストによって教会に与えられたリーダーは、それぞれがふさわしい形で働きをなしていくことができるように、ひとりひとりに必要な知恵や訓練を与えて、準備をしてくれるということです。これが教会に霊的リーダーが与えられている最大の目的なのだとパウロは言っていました。

では、ここで少し考えてみてください。この霊的リーダーたちは一体どのようにして私たちを整えてくれるのでしょうか？ どのようにして私たちを主の働きに十分な者として訓練してくれるのでしょうか？ 少なくとも二つの方法を挙げることができます。

●霊的リーダーが用いる二つの方法

a. みことばによって

一つ目は、もちろん「みことば」によってです。みことばによって私たちを整えてくれるのです。私たちもよく知っているⅡテモテ3：16—17でパウロは「:16 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。:17 それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。」と言いました。聖書はすべて最初から最後まで神様のことばなのだ。この聖書の中には、私たちの信仰生活の歩みに必要なすべての知恵が十二分に記されているのです。だからこそ、このみことばは「教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益で」あるし、聖書には、救われた者がすべての良い働きをしていくために、良い働きにふさわしい者になるように整えていく力があるのです。皆さんはよくこのことを知っています。なぜなら、私たちがみことばを学べば、まず、自分自身がいかに罪深く、神様の前にまったく価値のない存在であったかを知ることができますし、同時に、そんな私たちに対して注がれている神さまの大きな愛や恵みを見ることができるからです。そのことを私たちが感謝すれば感謝するほど、みことばを学んでその真理を知れば知るほど、私たちはどのようにして互いに愛し合っていくべきなのか、どのようにして互いの中で赦しを実践していくべきなのか、また、私たちが主と人々に仕えていくにあたって、どのような態度でそれをなすべきなのかといった、神のみこころもみことばから見ることもできるのです。確実に言えることは、救われた私たちが信仰において成長していくために必要なすべてのものが、この聖書の中に記されているということです。だからこそ、みことばを解き明かして神様の知恵を分かりやすく教えてくれる霊的リーダーである牧師や教師と呼ばれる人たちが教会には必要であるし、また、霊的リーダーが持つ責任は、まず、自分自身をみことばで養い、それによって人々を訓練する備えをいつもしておかなければいけないということです。

霊的リーダーにはそのようにみことばを教えるという働き、責任があります。パウロも「聖書がすべて神様のことばであり、神の人にとって有益なものなのだ。」と述べた後に、続けてⅡテモテ4：2で「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。」と書いていました。これが、地上での自分のいのちがもう長くないと知っていたパウロが愛するテモテに伝えたかったことでした。パウロは、テモテに「聖書は神様のことばであり、このみことばにのみ人々を変えていく力がある。だから時が良くても悪くても、どんな時であろうとも、このみことばを人々に絶えず教えていきなさい。」と命じたのです。

私たちに必要なものは、人が生み出した知恵や、良い話や、考えではありません。そのようなものには私たちが整えていく力など、一切ないのです。私たちが、主の働きにふさわしい十分な者へと備える力があるのは、神様のことばである聖書だけです。教会に与えられた霊的リーダーはこの聖書を用いて人々を整えていくのです。

b. 祈り

二つ目に挙げられるのは「祈り」です。みことばと祈りによって人々を整えていくのです。ヘブルの著者がこのように祈っていました。ヘブル 13：20-21「:20 永遠の契約の血による羊の大牧者、私たちの主イエスを死者の中から導き出された平和の神が、:21 イエス・キリストのより、御前でみこころにかなうことを私たちのうちに行い、あなたがたがみこころを行うことができるために、すべての良いことについて、あなたがたを完全な者としてくださいますように。どうか、キリストに栄光が世々限りなくありますように。アーメン。」ここに出てきたこの「完全な者」と訳されていることばは、実はエペソの中で出てきた「整えて」と同じことばが用いられています。つまり、ヘブルの著者は、兄弟たちがみこころを行ってすべての良いことについて整えられた完全な者となっていくことができるように、主が働いてくださるようにと祈っていたのです。私たちが整えられた者になっていくためには、絶対に神様の力を欠かすことはできません。だからこそ、教会を養い導いていく霊的リーダーたちにとって、この祈りは必要不可欠なものでした。使徒 6：2-4にも「:2 そこで、十二使徒は弟子たち全員を呼び集めてこう言った。「私たちが神のことばをあと回しにして、食卓のことに仕えるのはよくありません。:3 そこで、兄弟たち。あなたがたの中から、御霊と知恵とに満ちた、評判の良い人たち七人を選びなさい。私たちはその人たちをこの仕事に当らせることにします。:4 そして、私たちは、もっぱら祈りとみことばの奉仕に励むことにします。」と記されています。ここでも見られるように、教会のリーダーであった十二使徒に託されていた一番大きな責任は、「祈り」と「みことば」の奉仕でした。こうして霊的リーダーはみことばを教え、また祈ることによって私たちひとりひとりを整えてくれるのです。

だとすれば、私たちはこの霊的リーダーたちにどのように向き合うべきなのでしょう？色々なことが言えると思いますが、一つは、自分はだれからも学ぶ必要がないとか、もうすでに十分学んだから、だれにも指図されたり教えられたりしたくないといったプライドは、持たないことです。皆さんの中に、「もう自分は十分神様のことを知っています。」と言える人はいますか？いませんね？私たちはみな、まだまだ学ぶことがたくさんあります。ましてや、あのパウロでさえ、ピリピ 3：12で「私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして、追及しているのです。そして、それを得るようにとキリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。」と言いました。パウロですら完全な者でなかったとすれば、私たちは言うまでもありません。私たちはみな欠けているところがまだまだたくさんあります。そんな私たちが整えられた者になっていくために、キリストが教会にリーダーたちを与え、私たちはその人たちからみことばを学んでいくようという役割を与えたのです。だから、その人たちからみことばを続けて学んでいくことです。そして、もう一つだけ言うとすれば、みことばを教える働きがしっかりとなされ続けていくようにと、私たちが霊的リーダーたちを祈りによって支えることです。皆さん、これは私だけのことを言っているではありません。どうか、ほかの長老たちのために、また、みことばを語るという同じ働きに従事しておられるひとりひとりを覚えて、ぜひ皆さん祈ってください。祈りほどそれらの人々の大きな励ましになるものはありません。

こうして霊的リーダーが教会に与えられたのは、まず、その者がみことばを忠実に語って、また祈りによって教会のひとりひとりを働きにふさわしい者へと整えていくことでした。これが、教会が成長していくために、キリストが持っておられた計画でした。

2. 整えられた者が奉仕の働きをするため 12b節

続いて、キリストが教会に与えた賜物、霊的リーダーを与えた二つ目の目的は、「整えられた者が奉仕の働きをする」ためです。パウロは 12節でこのように続けていました。「それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ」と。皆さん、この部分はもう、とても重要な部分です。パウロは、教会に霊的リーダーが与えられたのは、私たちひとりひとりを十分に整えるためであり、その整えられた者たちが奉仕の働きをするためだ、と言いました。言い換えれば、長老といった霊的リーダーたちが与えられているということは、この人物たちだけが教会における働きをしていくのではないのだ、ということになります。皆さん

の中にはこのように考える方はあまりおられないかもしれませんが、意外と多くの人たちが、教会におけるリーダーである「牧師」の働きに関して、聖書的ではない誤った考えを持っています。例えば、教会に与えられているすべての働きの責任は牧師にのみある、と考える人もいれば、本来、教会にあるすべての働きは牧師といった霊的リーダーたちがなす働きであるので、自分はただボランティアとして手伝っているに過ぎない、との考えがあるのです。でも皆さん、教会に与えられた働きはすべて霊的リーダーのものであると、果たして聖書は教えているのでしょうか？そうではないですね。みことばは、教会にあって牧師ひとりが「聖徒たちを整えて奉仕の働きをし、キリストのからだを建て上げていく」とは教えていませんでした。むしろ、霊的リーダーはみことばを教えて、それによって整えられた者たちが奉仕の働きをしていくのだと教えていたのです。だからこそ、私たちは、教会のリーダーたちが働いているのをただ傍観する者ではありませんし、また、少人数の、特定の人たちだけが主に仕えて、それ以外の人は何の役割もありません、私には何もすることがありませんというようなものでもないのです。

以前にもこのエペソ4：7節から見たように、主は救われたすべての者、私たちひとりひとりに賜物を与えてくださっていました。そして、それぞれがその賜物を用いて主と人へと仕えていくことが求められていたのです。私たちは一つのキリストのからだに属する者とされて、ひとりひとりがそれぞれ特有の働きをする器官として存在しているのです。みな異なる働きをするそんな器官であるからこそ、だれひとりとして不必要な者はいないし、またそれぞれが与えられている働きを全うしていくことなしに、教会の成長はないのです。それぞれが忠実に与えられた賜物を用いていくことが、教会の成長には欠かせないのです。これが教会の成長のためにキリストが持つておられた設計図、計画でした。

ここでまた考えてほしいのですが、整えられた者がなすべきことに、「奉仕の働き」と書いていましたが、皆さん、「奉仕の働き」とは一体何を指しているのでしょうか？整えられた人は一体何をしていく必要があるのでしょうか？

この箇所でも用いられている「奉仕」ということばは特定の働きを指すものではなくて、「多岐にわたるさまざまな種類の奉仕」、「主に仕える」ということを意味しています。つまり、「奉仕」というのは、みことばを教えることも、霊的に困っている人を励ますことも、聖書に基づいて子育てをしていくことも、また教会で食事の準備をしたり、掃除といったものでさえも、主のためになされるありとあらゆるものが、この「奉仕」ということばには含まれているのです。ですから、みことばによって整えられた者は、ある特定の奉仕だけをしていくのではありません。主のためにさまざまな形で自分を捧げ、仕えていこうとするのです。整えられた私たちは今、仕える者として歩んでいます。仕える者として生きているのです。言い換えれば、私たちは自分のために生きていく者ではなくて、主とほかの兄弟姉妹のために生きる者になったのだということです。それが、私たちが教会に置かれている目的なのです。仕えるのだと。

これこそまさに、私たちの模範であるイエス様の姿でした。主はご自分がこの地上に来られた目的をこのように記していました。マルコ10：45で「人の子が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです。」と。「人の子が来たのは、仕えられるためではなく、かえって仕えるため・・・」そのことば通りに、本来であればご自分こそが人に仕えられるべき神であったにもかかわらず、私たちの罪のために十字架にかかって、ご自分のいのちを贖いの代価として捧げてくださいました。

皆さん、私たちはこの主の模範に倣って生きて行く者です。この主に似た者にならなりたいと願っているのです。私たちが仕えるときには、この主を証しする者にふさわしい整えられた者として働きをなそうとしていくのです。でも、実際はどうでしょう？私たちは周りの人に仕える者でしょうか？いやもっと正確に言えば、私たちは、主が仕えられたように周りの人に仕える者でしょうか？

私たちがこの「仕える」ということを考えるときに、正直、私たちは難しさを覚えることがあります。こんなことを考えたことはないでしょうか？ほかの人に比べて自分はひどく劣っているから、こんな自分が奉仕するよりも、できる人に任せた方が教会にとっていいんじゃないか、できる人に任せて自分は周りで見ていようとか、あの兄弟と一緒に働きをしてみたいけれど、どうも自分はその人のやり方は気に食わなかったの、今度からはあの人は置いといて自分だけでやろう。このような間違った謙遜によって教会で仕えていくことをやめてしまったり、また自分のやり方に沿わない兄弟姉妹がいたなら、その人たちと一緒に仕えていくことを拒んだりしたことはないでしょうか？また、私たちは一緒にやっ

てみて上手くいかなかったり、自分の思う通りにならなかったときに、口では、「じゃあ、どうぞあなたの思う通りにやってください。」と言いながらも、心の中では相手に対して不満を持っていたり、その人が失敗することを望んでいたりすることはないでしょうか？その人を思い浮かべるときに、その人のやり方は気に入らないという思いやその人自身を否定しようとする思いが、私たちのうちにないでしょうか？

皆さん、よく考えてください。あなたのしていることは、奉仕でしょうか？それとも、結局、自分自身のために行っていることでしょうか？私たちが口でどう言おうとも、もし私たちの心の中に自分を中心にする思いや、仕えることよりもだれかが自分に仕えてくれることを望む思いがあるのなら、そこには一致はなく、絶えず争いというものが生まれてきます。自分の考え、自分のやり方、また自分の価値観などを相手に押し付けようとする姿は、仕える者の姿では絶対でない、ということです。もし、そんな思いが心の中を支配してしまいそうになるなら、私たちの主の姿を思い出すことです。主が私たちに仕えてくださったときは、そんな態度ではなかったですよ。

この方はあらゆるものを犠牲にしてご自分をへりくだらせ、人に愛を示して仕えようとされたお方でした。少し思い返してみてください。最後の晩餐のときに主はどんなことを弟子たちになさいましたか？主はご自分の弟子たちの足を洗われました。この後、自分を裏切っていくことが分かっていたイスカリオテのユダの足をも、主は洗われました。そしてその後、このように主は彼らに語られました。ヨハネ 13：12-14に「:12 イエスは、彼らの足を洗い終わり、上着を着けて、再び席に着いて、彼らに言われた。「わたしがあなたがたに何をしたか、わかりますか。:13 あなたがたは わたしを先生とも主とも呼んでいます。あなたがたがそう言うのはよい。わたしはそのような者だからです。:14 それで、主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。」と書いてあります。

ここで皆さんに注目してほしいのは、弟子たちの足を洗われた主は、彼らに「わたしの足をも洗いなさい」とは言わずに、「互いの足を洗い合うべきだ」と命じられているということです。もしイエス様がここで「わたしの足を洗いなさい」と弟子たちに言われたなら、彼らはそれを喜んで行ったと思いませんか？自分たちよりも遥かに優れている主であり師である愛する主に対して、足を洗うという態度を示すことは彼らにとっては容易なことだったでしょう。でも、主が彼らに求めたのは、彼らが「互いの間で足を洗い合う」ことでした。思い出してほしいのは、彼らはこの晩餐の前にも晩餐のときにも、自分たちの中でだれが一番偉いのかを議論し合っていたのです。(ルカ：22：24、マルコ9：34)彼らは、自分の方がほかの兄弟たちよりも優れているという考えをいつも持っていました。そんな者たちに対してイエス様が求めたことは、「互いの足を洗い合いなさい」、「自分を捨てて、仕え合っていきなさい」ということだったのです。

これは、私たちにとっても大切なことです。なぜなら、私たちも、自分より勝っていると思える人や自分の愛する者に仕えていくことは、比較的容易なことだからです。でも、自分と考えが違う人や自分と合わない人にも、同じように喜んでその人に仕えていくことができるでしょうか？よく考えてみてください。私たちがだれかに仕えることを拒むときに、喜んで仕えようとしないときに、私たちの心にはどんな思いがあるのでしょうか？もしかすると、自分はその相手よりも優れているというようなプライドがあるのではないのでしょうか？このような態度を持っていれば、私たちは互いに仕え合っていくことなどできません。そして、何よりもこのような思いは、悔い改めなければならない主の前に大きな罪だということです。相手に知られてないから構わない、などということではなくて、そのようなプライドを持っているなら、私たちはそのことを悔い改めなければいけません。私たちは主が示された模範に従って、自分をへりくだらせ、いつも互いに人を自分よりも優れたものとして仕えていくことです。自分の思いを優先するのではなく、教えられたみことばによって整えられた者として、主に喜ばれる態度をもって奉仕していくのです。

こうして霊的リーダーが教会に与えられたのは、まずその者がみことばを忠実に語り、また祈りによって教会のひとりひとりを働きにふさわしい者へと整えていくことでした。そして、みことばによって整えられた者たちが、ふさわしい態度でもって、さまざまな形で主と人に仕えていくのです。これが、教会が成長して行くためにキリストが持っておられた計画でした。

3. 整えられた者たちが働いてキリストのからだを建て上げるため 12c節

そして最後に、キリストが教会に賜物として霊的リーダーを与えた目的の三つ目は、「整えられた者たちが働いて、キリストのからだを建て上げる」ためでした。パウロは12節をこのように締めくくっています。「それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、」と。キリストが教会に霊的リーダーを与えた目的、それはまず霊的リーダーたちがみことばを教えることによって「聖徒たちを整え」、その整えられた者たちが主のために「働き」をなし、その結果、「キリストのからだ」が建て上げられていくことでした。これが、教会が成長して行くために主が持つておられた設計図でした。だからこそ、私たちはこの設計図に基づいて教会を建て上げていくこと、この設計図に基づいて成長していくことが求められているのです。

でも、残念ながら、多くの教会はこの設計図を無視して、自分たちの考える方法で教会の成長を目指していこうとするのです。その典型的な例は、礼拝の中でみことばを語るのではなくて、人々が受け入れやすい話をしたり、また、礼拝からみことばを除いて、賛美やさまざまなプログラムを中心にして、人々が教会に来やすいように色々と知恵を用いるのです。確かに、教会の人数は増えていくかもしれません。でも、悲しいことに、そこに本当の成長はありません。キリストが教会を建て上げるために示された設計図にのっとっていくことなしに成長はないと教えています。教会が成長していくためには、成熟した霊的リーダーがみことばを語ること、そして彼らによって整えられた者たちがリーダーとともに働いていくこと、この二つの働きが必要不可欠なのです。

ですから、このことをよく覚えておいてください。教会の成長のためには、霊的なリーダーも教会に集うひとりひとりも、そのどちらの働きも欠けてはならないということです。もし、どちらかがその働きをやめてしまえば、教会には成長というものはありません。もし、霊的なリーダーがみことばを教えることをやめてしまったり、みことば以外のものを語り始めてしまったら、教会はその確固たる土台を失っていくだけではなくて、皆さんを十分に養っていくことができなくなるのです。また奉仕のために整えられた者たちが教会からいなくなり、結果としてリーダーがすべての働きをしていかなければいけなくなります。また、もし、教会に集うひとりひとりがみことばによって養われることを拒んだり、奉仕することをやめてしまえば、これも同じように、教会にはみことばによって整えられた者たちがいなくなっていきます。そして、たとえ人々が主のために仕えようとしても、それぞれが自分の考えや思いに基づいて行っていこうとするので、数多くの問題が生じてきます。問題が起きれば起きるほど、次第に奉仕することに疲れ果ててしまって、ほかの兄弟姉妹たちから距離を取り、奉仕はしていても喜びが失われてしまうのです。また奉仕することを拒み、やめる人が数多くなれば、特定のわずかな人だけで教会のすべての働きに携わらなければならなくなります。その人たちも最初は感謝をもって奉仕していたとしても、あまりの忙しさに疲れ果ててしまいます。ですから、教会が成長していくことを考えるときに、神の家族として成長していくことを考えるときに、霊的なリーダーが忠実にみことばをもって祈りの働きに専心して、人々をみことばによって養っていくという働きを欠かすことは絶対にできないし、みことばによって教えられたひとりひとりが整えられていき、同じキリストのからだを建て上げるという目標を目指して仕え合っていくことも欠かすことができないのです。どちらの働きも必要不可欠なのです。教会には、働きに一切携わらないという傍観者は一人もいません。みな主が喜ばれる態度をもって、それぞれに与えられた働きを全うし、それらすべてを通して主の栄光が現されることを目指していくのです。そのことを最後にペテロもこのように言っています。I ペテロ4：10-11「:10 それぞれが賜物を受けているのですから、神のさまざまな恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい。:11 語る人があれば、神のことばにふさわしく語り、奉仕する人があれば、神が豊かに備えてくださる力によって、それにふさわしく奉仕しなさい。それは、すべてのことにおいて、イエス・キリストを通して神があがめられるためです。栄光と支配が世々限りなくキリストにありますように。アーメン。」と。

霊的リーダーが教会に与えられた目的は、まずその者がみことばを忠実に語って、また祈りによって教会のひとりひとりを働きにふさわしい者へと整えていくことでした。そして、その働きによって整えられた者たちが学んだことを、ふさわしい態度をもってさまざまな形で主と人へと仕えていくのです。そのようになされていくことより、その結果として、キリストのからだである教会全体が、ますます成長へと繋がっていくのです。皆さん、その姿がイメージできましたか？これが、教会が成長していくために、キリストが持つておられた計画でした。

〇まとめ

私たちは、キリストが教会に賜物として霊的リーダーを与えられた目的についてともに考えてきました。皆さん、主の計画は、私たちの想像をはるかに超えたすばらしいものだったと思いませんか？教会に霊的リーダーが与えられたのには確固たる目的があったのです。それは彼らが、まず、みことばと祈りによって聖徒ひとりひとりを整えていくことでした。そして、整えられた者たちみなが教えられたみことばに従って、互いに仕え合い、キリストのからだを建て上げていくのです。私たちはみなそのような目的を持って今を生かされています。

もし、きょうのみことばを聞いて、自分はまだこのイエスキリストが何をなされたのかを個人的に知らないという方がおられるなら、この主が十字架に架かってどのような救いを成し遂げられたのか、そのすばらしさを知らない方がおられるなら、ぜひ周りにいる人にそのことについて聞いてみてください。また、教会に連絡してください。どうかこのすばらしい福音を、自分のこととしてよく考えてみてください。そして、この主を知って、この方のために生きる人生を今日から始めてください。

この主のために今を生きている皆さん、私たちはただ何となく救われて、ただなんとなく神の家族として生きているわけではありません。皆さんひとりひとりには、キリストのからだである教会を建て上げていくという大きな責任があるのです。私たちはその責任に忠実に働いていくことです。みことばをまず学び、それによって整えられて、主がそれぞれに与えてくださったその賜物を用いて喜んでさまざまな働きを主のためになしていくことです。それが私たちに与えられた責任であり、また特権です。ですから、続けてこの主の設計図に忠実に従って、キリストのからだを建て上げ、私たちの愛する主の栄光を現す者として生きていきましょう。